

2010年12月13日

城山・藤野

「環境未来都市」構想を実現する執行体制のイメージについて

1. 執行体制の要素

(あ) 執行体制は個々のエリアにおける実施体制ではなく、「環境未来都市」構想全体をマネジメントする執行体制としても構築すべきである。具体的には、目指すべき「環境未来都市」の具体的なイメージを構築するとともに、指標等を用いて現場における進捗を定量的な評価も行える仕組みを提供するといった役割を果たす。

(い) 自治体等関係者から出される提案書に対して、実際に現場の状況および実施体制について綿密に調査しながら、目指すべき「環境未来都市」の具体的なイメージを実現するために、関係者との継続的対話を通してその提案書を実現の可能性ができる限り高くなるように引き上げる。そのために必要な規制の強化または緩和を所掌する主体に働きかけ、必要な予算および人材の確保を行い、主体者への必要十分なサポートを行う。

(う) これらのプロセスをインターネットやホームページ等で積極的に公開し、意欲のある主体ならだれでも参考になるような情報の共有を図る。また、国内外のベストプラクティス等の情報を収集・分析し、常に最良の知識を保持プラットフォームを構築する。

2. 執行体制の役割と位置

(あ) 「環境未来都市」構想の重要な趣旨は、公募等のプロセスを基礎に選択されたエリアに対して圧倒的な資金・人材・知識の集中投資を行うことで、「環境未来都市」の実現を大幅にスピードアップすることである。このようなプログラムを実施するためには、プログラム執行全体におけるスピードアップが必要になる。

(い) 規制創造・緩和に対して関係する省庁等に責任を持って提言を行い、必要な法律を準備し、必要な予算を確保し、世界から集められる優秀な人材が最大限の力を発揮できる環境を作るといった役割を担う。

(う) 「環境未来都市」のコンセプトを具体化し、実現する可能性の高い計画づくり、およびそれを実現するプロジェクトチーム作りを選択されたエリアごとに支援する。

(え) 以上のような執行体制の役割の性格を考えると、執行体制は政府に近い位置に設置する必要がある。

3. 執行体制のチーム編成

- (あ) 全体像を把握できるプロジェクトマネージャー
- (い) 都市計画やファイナンス、技術普及策、規制・制度設計等、それぞれの分野の第一人者
- (う) IRR の計算、リソースアロケーション、タイムスケジュール管理；国内外のベストプラクティスの分析調査・情報収集およびその各エリアへの適用案の考察；法律や会計など専門的なサポート；などの必要な業務を担えるメンバー
- (え) コミュニケーション戦略に基づいて内外に情報を発信できるメンバー

4. 執行体制の構築と「環境未来都市」選択のプロセス

- (あ) 「環境未来都市」有識者検討委員会が執行体制の具体的なデザインと活動の方向付けを行い、人選について推薦（場合によっては決定）を行う。
- (い) 執行体制において、日本の中から「環境未来都市」を選択するための公募案を作成し、選択するためのクライテリアを提示する。「環境未来都市」としては、総合的な取り組みで「環境未来都市」を目指すエリアや地域の実情に応じた特定の目的の実現に特化した「環境未来都市」を目指すエリアなど複数の考え方に基づいたクライテリアの設定もありうる。
- (う) 執行体制は、自らまたは第三者的機関によって選ばれた「環境未来都市」に対して、提案された企画書をもとにしながら対話を重ね、理想とする社会イメージを実現する確率を限りなく高める実現プランを提案者とともに考案する。そしてその計画がどのように実施されていくか、世界で最良と思われる執行体制チームの英知をもってアドバイスしながら、透明性・公開性をもって進捗状況を国内外に随時報告する。

4. 執行体制活動のスケジュール

年明け早々には具体的な執行体制チームの原案を固め、3月末から4月の早い時期までに執行体制による、より具体的な「環境未来都市」のイメージ（コンセプト）づくり、「環境未来都市」選択のクライテリアづくりを進め、来年度早い時期に「環境未来都市」を公募できる体制を作ることが望ましい。

以上